
獾と黒豚

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

獺と黒豚

【コード】

N5028K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

動物園の目立たない仲間スポットライトを当ててみた。

紅葉と動物を見に、家族総出で動物園に行った。
色々な動物の中でも、獺が一番好きだ。

前回動物園に来た時は、ニタニタ笑顔で眠っていた。

しかし、今回は起きていて、同じところを何度も往復していた。

歩き方はのたのたしていて沖縄で見たししまいの動きにそっくりだ。
中に人間が入っているんじゃないかと疑いたくなる。

灰色で大きくて、目は虚ろだ。

檻の前にある看板を読むと、獺は泳ぎがうまくて、臆病だと書いてある。

しばらくして獺の見物人が増えてきた。

獺は驚いたのか、興奮気味に走り出した。

目も元気になった。

可愛い奴め。

獺が良かったから、他の動物を見てもつまらなかった。

その時、一匹のメスの黒豚が目についた。

看板によると、この豚は、いのぶたらしい。

しかも「ぶーちゃん。」と名前を呼ぶと返事するらしい。

早速名前を呼んでみる

だが、全く返事をしない。

普通だったら、「このインチキめ。」と思うだろう。

でも、逆にぶーちゃんを尊敬したくなった。

人間に媚びないたくましい姿勢が美しい。

しかし、私の弟が名前を呼んだら、一回だけ小さな声で短く「ぶ。」と鳴いた。

畜生！メスブタめ、男に媚びやがって。

しよげながらもつ一度獾を見に行ったら、獾が「みゅつっ。」と鳴いてくれたので嬉しかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5028k/>

猿と黒豚

2011年1月9日01時14分発行